

平成30年度事業計画書

1、定款に規定する事業に則り次の事項を行う

公1-1 都市防災・美化に関する調査・研究

(1) テーマ 「関東大震災に係わる震災遺構における緑地の役割と今後の活用のありかたに関する調査研究」

(2) 調査・研究の背景と目的

- ・我が国は明治以降数年に1回の頻度で地震災害が発生し続けている。なかでも関東大震災、阪神淡路大震災、東日本大震災は、人的被害・経済被害も大きく、社会的にも大きな影響を与えた。
- ・特に関東大震災では、世界各国から支援を受け、その支援活動が教訓となり、国際緊急援助隊・民間国際災害ボランティア活動促進の契機となった。また、都市防災の観点からは、都市における公園緑地・広場の重要性が認識され、延焼遮断・避難地形成として広く整備・設置された。
- ・横網町公園・清澄庭園等、及び復興事業として大小55の公園に設けられた広場は、避難地としてだけでなく、惨事を伝承する教育の場として、また地域の催行事など文化的活動の場として、地域活性化に資する役割を担っている。今後も、更なる新たな魅力の創出の場として期待される。
- ・そこで、本調査研究では、近代日本における防災の先駆けとなった施設系緑地である関東大震災に係る震災遺構、並びに創出・再整備された公園緑地を対象に、その保護や利活用の状況について調査を実施し、現状分析と課題抽出を行い、その在り方を検討する。

(3) 調査・研究の内容及び方法

(1) 「調査対象」

関東大震災に係わる震災遺構：横網公園・大手濠緑地・清澄庭園・墨田公園など

(2) 「調査内容及び手法」

- イ. 文献調査…調査対象の設計・計画・施設内容・機能等の資料収集し、その役割等を整理
- ロ. 現地踏査…施設の現状や利用状況把握。ヒヤリング・アンケート調査、実施
- ハ. 課題検討…遺構の保護・利活用を分析、課題抽出
- ニ. 利活用の在り方の検討

(4) (公財)都市防災美化協会に調査・研究委員会を設置し、調査・研究を推進する。

① 調査・研究委員会の構成

<事業統括>	・中島 宏	公益財団法人都市防災美化協会 理事長
<委員長>	・中林一樹	明治大学院特任教授
<副委員長>	・斎藤庸平	兵庫県立大学名誉教授
<委員>	・上杉俊和	公益財団法人東京都慰霊協会 常務理事
	・落合直文	株式会社文化環境設計研究所 代表取締役
	・清水政雄	公益財団法人都市防災美化協会 理事
	・轟 貞幸	公益財団法人都市防災美化協会 理事
	・西口敏之	公益財団法人都市防災美化協会 常務理事
	・野間優子	株式会社文化環境設計研究所 代表取締役
	・松原秀也	株式会社ヘッズ大阪事務所 副所長
	・和田幸子	公益財団法人都市防災美化協会
<事務局>	・野間優子	株式会社文化環境設計研究所 代表取締役
	・和田幸子	公益財団法人都市防災美化協会

その他必要に応じて企業の防災、都市計画、環境等の専門家からメンバーの追加を行う

- ② 調査・研究委員会の運営
「調査・研究委員会」は3回実施する
 - 第1回委員会(平成30年5月頃)
 - 第2回委員会(平成30年10月頃)
 - 第3回委員会(平成31年2月頃)

(5) 調査・研究期間

平成30年4月より平成31年2月までとする

(6) 業務委託契約の内容

- ① 業務委託名称
「関東大震災に係わる震災遺構における緑地の役割と今後の活用のありかたに関する調査研究」
- ② 業務委託期間 平成30年4月から平成31年2月まで
- ③ 契約締結日 平成30年4月
- ④ 委託先 株式会社文化環境設計研究所
- ⑤ 調査・研究報告所の体裁 A4判 100ページ程度

公1-2 都市防災・美化に関する図書・印刷物の発行

- (1)
 - ① 不特定多数の都民が当協会の行う調査・研究の成果品を活用することによって、防災・美化対策の一助になるよう出版する。
 - ② 国や地方公共団体の防災、環境の保全、保護及び整備等の担当者、関係者及び大学等の研究者に役立てて頂くよう出版する。
- (2) 出版物 「地区防災計画制度運用の活性化に関する調査研究」
- (3) 出版部数 600部(予定)

公1-3 都市防災・美化に関する普及・啓発

- (1) 都民及び団体等への都市防災・美化に関する普及・啓発活動の一環として都市防災・美化に関わる大学の研究者、行政、研究機関及び図書館等に出版物を無償頒布する。
- (2) 当協会の出版物を活用して、防災・美化対策に関連する講演会、協議会等で公表したり、シンポジウムを開催する等によって普及・啓発を図る。